

令和6年度 第3回 加古川市地域公共交通会議 議事概要

○開催概要

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 令和7年2月28日(金) 午前10時から午前11時30分まで |
| 開催場所 | 加古川市役所 新館10階 大会議室 |
| 出席者 | 委員20名中19名(代理出席2名)、オブザーバー6名、事務局5名、傍聴1名 |
| 議事次第 | 1 開会 会議の趣旨 出席状況報告 2 協議 協議第1号 かこバスミニ・山手ルート of 延伸について 3 報告 報告第1号 かこバスへの定期の導入について 報告第2号 かこバスのダイヤ改正について 報告第3号 デジタルサイネージの設置について 報告第4号 かこバスミニ・平岡東南ルート of 利用者数について 報告第5号 コミュニティ交通の運行状況について 報告第6号 加古川市地域公共交通活性化協議会 of 設置について 4 閉会 |

○議事概要

| |
|---|
| <p>■ 協議第1号 かこバスミニ・山手ルート of 延伸について</p> <p><説明概要></p> <p>かこバスミニ・山手ルートを延伸し、現在公共交通不便地域となっている、神野町の日岡苑、西之山、石守の一部地域に停留所を新設する。さらに、周辺の既存路線バスとの連携により、広域へのネットワークを確保する。</p> <p><意見・質疑応答></p> <p>(委員) 新設する停留所が4ヶ所あるが、利用の見込みはどうか。また、現行の便数を確認したい。</p> <p>(事務局) 現在、山手ルートは1日10便で1便あたり2.5人の利用がある。かこバスミニ路線で1便あたりの利用が最も多いルートは3.5人であるため、3.5人は難しいかもしれないが、3.0人を目指したい。</p> <p>■ 報告第1号 かこバスへの定期の導入について</p> <p><説明概要></p> <p>かこバスにおける新しい運賃支払方法として「定期」の導入を予定している。定期の導入により、ICカードへの金額チャージが不要になり、勤務先での通勤手当の申請にも使えるため、かこバス利用者の利便性向上及び利用者増につながると考えている。</p> <p><意見・質疑応答></p> |
|---|

(委員) 定期となると事業者へのPRが重要だと考えるが、PRについてはどうか。

(事務局) 市ホームページや駅周辺に設置しているデジタルサイネージ等で周知したい。また、庁内連携等により、別の会議体でも周知を図れるよう検討したい。

(委員) 商工会議所のメンバーにも広報が可能であるため、協力させていただく。

■ 報告第2号 かこバスのダイヤ改正について

<説明概要>

令和7年4月1日より、かこバスのダイヤ改正を予定している。主な改正内容としては、厚生労働省の改善基準告示改正による夜間の時間帯の減便と、定期券導入に伴うかこバス利用者の増加に対応する時刻変更である。また、その他一部便の軽微な時刻変更も予定しており、3月中旬頃から神姫バスナビとバス停への掲示を行う。

<意見・質疑応答>

(委員) 減便の影響を最小限に抑えるために、どのように工夫しているか。

(オブザーバー)

かこバスは毎便乗降調査をしており、利用が少ない便（最終の一本前の便）を減便している。なお、東加古川ルート有加古川駅発の便については、一定の利用があるため、加古川市と協議のうえ、減便対象から外している。

(委員) 野口エリアは人口が非常に増えている。野口エリアで増便の可能性はあるか。

(オブザーバー)

かこバスの増便や新しいルートの検討については、加古川市のコミュニティバスであるため、加古川市の計画のもと協議することになる。

(事務局) 積み残しが発生するような状況になれば、増便や新規ルートの設定等が必要になると考えている。かこバスの利用状況等を踏まえ、運行方法について検討したい。

■ 報告第3号 デジタルサイネージの設置について

<説明概要>

JR 加古川駅構内の改札を出て正面左手と、駅南口ロータリーのバス停前に各1台ずつ、計2台のバス運行案内デジタルサイネージを設置し、令和7年2月1日より運用を開始している。表示内容は路線バス・かこバス等の発着情報や時刻表・路線図、市政情報、観光情報、イベント情報等で、利用者の利便性の向上と公共交通の利用促進を図りたいと考えている。

<意見・質疑応答>

(委員) 市の広報だけでなく、民間事業者の乗務員募集や、市の都市計画に関わるような広告等も考えているのか。

(事務局) 都市計画の内容に限ったものではなく、市政情報、観光情報等いろんな情報を考えているが、駅構内でも表示されるため、民間事業者の広告は難しいと考えている。それ以外の公益的な広く周知すべきような内容のものであれば情報発信していきたい。

■ 報告第4号 かこバスミニ・平岡東南ルートの利用者数について

<説明概要>

令和6年10月1日より運行を開始した「かこバスミニ・平岡東南ルート」の利用状況について報告を行った。

<意見・質疑応答>

(オブザーバー)

自治体を跨いでの運行は初めてであったが、特に播磨町民に喜んでいただいている印象である。ただし気になる点として、運行開始月よりも利用者数が減少しているため、原因をリサーチし、今後対処していきたい。

■ 報告第5号 コミュニティ交通の運行状況について

<説明概要>

市コミュニティ交通のかこバス、かこバスミニ、チョイソコかこがわ、上荘くるりん号における令和5年度の利用者数、運行経費等について報告を行った。

<意見・質疑応答>

(委員)チョイソコ八幡地区と平荘地区の運行状況の中で、乗合率が1.5人前後となっているが、運用方法等の改善により、乗車人数を増やすことは可能か。

(オブザーバー)

乗合率の改善には、会員数や利用者数の分母を増やすことが大前提であると考えている。令和6年度についても、会員数、利用者数ともに確実に増加している。また、コールセンターのオペレーターやドライバーとのコミュニケーションを通じた見守り機能、外出のきっかけ作り、友達同士の呼びかけ等、チョイソコの使い方について、さらに情報発信していきたい。

(委員)現在は、スーパーや病院等には行けるが、ホームセンターにも行けるようになれば、利用が増えるのではないか。

(委員)予約の取り方についてはどうか。

(オブザーバー)

現在、先の予約時間が5分のずれで収まる場合は、乗合の予約が可能となっている。その5分を調整することは可能であるが、長くするほど別の予約が取れなくなるという悪影響もある。また、停留所の設定については、利用者の利便性向上のために、ホームセンターやその他の買い物施設等の追加、エリア拡大等検討していきたい。

(委員)どこの地域でも高齢者を初めとする移動支援が大きな課題となっている。氷丘地区ではささえあい協議会が主体となってひおc a rを運行しているが、全市的な広がりが展開できていない。地域の方や市とも相談・協議しながら、公共交通のあり方や移動支援について検討したい。

(オブザーバー)

かこバスの運行状況から、特に浜手ルート利用者の伸び率が高い。運賃は安価で、便数も一定数確保できているため、市民に根付いてきていると感じる。今後ともさらに地域の方に利用されるようなバス路線に成長していくことを期待している。

(オブザーバー)

氷丘地区のひおc a r等のボランティア輸送については、地域の活動として大事だと思うが、運転手が減少する中で継続できるか不安が残る。タクシー事業者が運行管理を担う、公共ライドシェアのような形態も必要だと考える。

(委員)チョイソコの乗合率が車の大きさに関わらず、1人台というデータが出ているが、乗合されている方の関係や、配車の都合で拾い切れていない方がいれば教えてほしい。

(オブザーバー)

高齢者は午前中の動きが活発であるため、午前中の予約は希望に沿えないケースが時々ある。乗合は友達同士の利用で、特に女性の方が多い。そういった使い方をされていると会員にも伝えていきたい。

(委員)人間というのは、プライベートで他人が乗ってくると、ちょっと不快というような心理もあり、上限値が1.5人ぐらいかなと感じる部分もあるが、工夫の仕方によっては、乗合率は上がっていきそうか。

(オブザーバー)

上がる余地はある。ただし、デマンド交通ということで、個人の予約の集合体であるため、どうしても1人1人の予約に左右されてしまう。乗合率を2人以上に上げるには時間がかかる。

■ 報告第6号 加古川市地域公共交通活性化協議会の設置について

<説明概要>

現行の加古川市地域公共交通プランは計画期間が平成29年度から令和8年度までの10年間となっており、令和9年度からの新たな地域公共交通計画の策定に向け、令和7年度から2カ年かけて調査及び策定にかかる事務を進める。事務を進めるにあたり、よりきめ細やかな議論を行うため、地域公共交通会議とは別組織として地域公共交通活性化協議会を設置し、国交省の補助事業である「地域公共交通調査等事業」の補助を受ける。

<意見・質疑応答>

(委員) 今後は、道路運送法関係は地域公共交通会議で協議し、活性化再生法関係は活性化協議会で協議していくという整理でいいか。また、開催の方法としては、道路運送法関連の協議事項のみの場合は地域公共交通会議として、活性化再生法関係のみの場合は活性化協議会として、両方の議案がある場合は両方同時に開催するというものでいいか。

(事務局) お見込みのとおりである。

以上